

# KAKADU

自分だけのストーリーを

カカドゥ

Northern Territory



[www.australiasoutback.jp](http://www.australiasoutback.jp)

© Naasaki Aihara

share our story



NORTHERN TERRITORY  
[australiasoutback.com](http://australiasoutback.com)

# Kakadu

カカドゥ

## 太古から続く地球と人類の息吹を感じに

トップ・エンドと呼ばれるオーストラリア北端に位置するカカドゥ。自然・文化の複合遺産としてオーストラリアで最初に世界遺産に登録されました。野鳥やワニなどユニークな野生動物が生息する手つかずの大自然と何万年も前からこの地に住むアボリジニの文化の痕跡を自分の目で確認しに行きましょう！

### 1日目・朝 さあ、いにしえから続く広大な大地へ

ダーウィンを早朝出発したら一路、カカドゥへ。公園内の町、ジャビルまでの約3時間、道路は舗装されているので運転は心配ありません。途中、あちこちで巨大な土の塔が、車を降りて近づいてみると、それはなんとアリ塚。中には3メートルを優に超すものも。

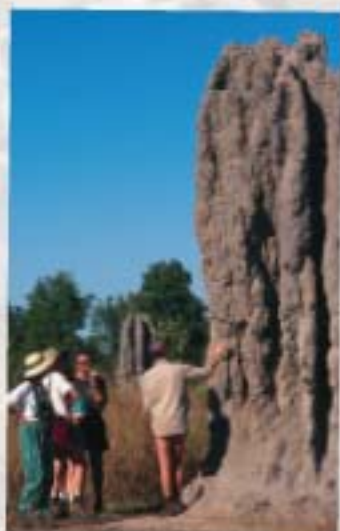
更に東に進み、ウインドー・オン・ザ・ウェットランドでショート・ブレイク。展示でトップ・エンドの生態系を学び、見晴台から広大な湿地を眺めるのもおすすめ。

あとはカカドゥに向かって一直線。公園に入ったらまず、ボワリ・ビジター・センターでカカドゥの自然や文化の展示やビデオを観て基本的な知識を身につけましょう。また、アボリジニのアート等を展示、販売するマラウディ・ギャラリーも併設されています。



**ウインドー・オン・ザ・ウェットランド**  
トップ・エンドの情報が揃う。  
☎7:30~19:00 ①無料  
[www.nt.gov.au/nreta/parks/nd/windowwetlands.html](http://www.nt.gov.au/nreta/parks/nd/windowwetlands.html)

**ボワリ・ビジター・センター**  
ジャビルから約5km。高車にはロードコンディショニングも確認できる。  
☎8:00~17:00 ①無料  
[www.es.gov.au/parks/kakadu](http://www.es.gov.au/parks/kakadu)



### 1日目・夕方 ウビル・ロックからどこまでも続く湿地に沈む夕日を見よう



カカドゥの町、ジャビルから更に北東に進むとウビルがあります。ウビルには太古から継承され続けたアボリジニによるロック・アートがいくつも鮮明に残っています。そこにはカンガルーや亀、魚はもちろん、いまは幻となったタスマニアタイガーの姿も。それらは人間や動物を細かい線で表現するレントゲン画法と呼ばれる独特の技法で描かれています。

ロック・アートを鑑賞後、さらに岩の頂上を目指してみましょ。250メートルほどの坂を進み頂上に到達すると、眼下には果てしなく広がる湿地帯が、地平線まで続いているのを見ることができます。その荘厳な景色に見とれていると、太陽が傾きかけ緑の湿地も徐々にオレンジ色に。忘れられない壮大な夕景が目に焼きつきます。



**ウビル・ロック**  
ジャビルから北へ約40km。乾季の間、レンジャーによる無料ガイドウォークがある。  
<4~11月>8:30~日没まで  
<12~3月>2:00~日没まで

**ワラジャン・カルチャーセンター**  
クーイングにある、この地に住むアボリジニが自分たちの文化を知ってもらうために作った施設。  
[www.gag.rti-j-dreaming.com](http://www.gag.rti-j-dreaming.com)

## 2日目・朝 原始の森で野鳥と一緒に迎える朝

原始の森が目覚めようとする早朝、サウス・アリゲーター・リバーの支流に位置するイエローウォーターに向かしましょう。広大な湿地にはまだ朝もやがかかっていることも多く、幻想的な風景が広がっています。ゆっくりとボートが進み始めると、川沿いの木々にカワセミやウミワシなど、いろいろな種類の鳥たちがとまっているのが見えてきます。ここだけで60種類約250万羽の鳥が生息しています。視線を水面に落とせば、間近にクロコダイルが目と鼻を覗かせて、睡蓮の花を横目にゆったり泳いでいる姿が見られるでしょう。夕暮れ時のイエローウォーターも実に美しいです。



### イエローウォーター・クルーズ

チケットはガガジュ・ロッジ・クワインズで事前購入可能。ロッジからボート発着場まで送迎つき。スタート時間の20分前にロッジを出発。ボート発着場ではチケットを購入できない。  
www.yellowwatercruises.com

### グルヤンビ・クルーズ

地元のアボリジニによるガイドで、アーネム・ランドとの境を流れるイースト・アリゲーター・リバーをクルーズ。途中、船から降りて彼らの狩猟方法などを習う。  
www.kakadutours.com.au

## 2日目・午後 そびえ立つ真っ赤な断崖

ジャビルとクワインズのちょうど中間、カカドゥ・ハイウェイを東に入ったところに、これまでの緑の湿地帯とは異なった赤い巨大な断崖、ノーランジー・ロックがそびえ立っています。ここでは日本のカミナリさまを彷彿させるナマゴンと呼ばれるアボリジニによるロック・アートが鮮明に見られます。数々のロック・アート以外にも、少し足を伸ばすとグンファーデーウォーター見晴台やアンパンパン・ピラボンからの景色など印象的な見どころがあります。



### ノーランジー・ロック

ジャビルとクワインズのちょうど中間地点に位置する。カカドゥ・ハイウェイを約20km南下して支道を約12km東に向かう。ノーランジー・ロックを訪れるツアーはいろいろな会社を取り扱っている。乾季の間に催行されている、レンジャーによるロック・アートのガイドツアーに参加するのもオススメ。  
◎7:00~日の入りまで

## 2日目・夕方 鳥たちの楽園、マムカラ・バードサンクチュアリ

ジャビルから西に30kmの所にカカドゥを代表する大湿地、マムカラ湿地があります。ここにはサギ類やカモ類、ペリカンなどの様々な水鳥が群れをなしてやってきます。中でも9~10月の何千羽にもなるカササギやカモの群れが夕暮れ時に飛び立つシーンはドラマチックな風景を生み出します。湿地を歩いて楽しめるよう散策コースやバードウォッチングのための小屋も設置されていて、雄大な自然と野鳥を満喫できます。ここで鳥たちと静寂の朝を迎えるのも気持ちいい。



### マムカラ・バードサンクチュアリ

ジャビルからアーネム・ハイウェイを西へ約30km、そこから1kmほど支道に入る。夕暮れ時が早朝に訪問するのがおすすめ。

### マリー・リバー・ウェットランド保護区

カカドゥの公園の西側、ダーウィンまでの道中に位置するたくさんの野鳥が集まる湿地。8月にはバード・ウィークと言イベントが開催される。

## 3日目・朝 大地の割れ目に流れ落ちる迫力の滝に圧巻

乾季のはじめなら、四輪駆動車でオフロードの道を進み、ジムジム滝とツイン滝を見に行きましょう。車を降りて1kmほど歩いてようやくたどり着いた滝の迫力と緑の気持ちよさに感動。またその滝壺で泳ぐこともできます。雨季の間であれば、小型飛行機から手付かずの原野と大地の割れ目に流れ落ちる滝を見下ろせば、地球の鼓動が聞こえてきそう。

### ジムジム滝・ツイン滝のツアー

乾季5~11月の間、4WD車を使った日帰りツアーがある。(雨天中止)  
・カカドゥ・ゴージ&ウォーターフォールツアー  
www.gagadu-driving.com  
・トップ・エンド・エクスプローラーズ・ツアー  
www.topendexplorertours.com

### 遊覧飛行

ジャビル・イースト空港から「カカドゥ・エアサービス社」がヘリコプターか小型飛行機で遊覧飛行してくれる。上空から見る原生の森のスケールは圧巻。時間と予算に合わせてさまざまなコースがある。  
www.kakadutour.com.au



ジムジム滝



ツイン滝

# ➔ もう1日延ばして、是非訪れたい絶景スポット

## 4日目・朝 キャサリン渓谷の壮大な地形を体感しよう



大陸縦断鉄道、ザ・ガンが停車することで知名度が急上昇したキャサリン渓谷。急流で分断された13の渓谷が集まり、壮大な景色を造り出しています。

### 【キャサリン渓谷の楽しみ方】

**クルーズ** 船上で朝食や夕食を楽しめる優雅なツアーや2時間、半日、1日とスケジュールに合わせて、様々なタイプのクルーズが楽しめます。

**カヌー** 渓谷のスケールをダイレクトに体感したいなら、カヌーがおすすめ。左右から迫る切り立った崖や壮大な滝に圧倒されること間違いなしです。

**トレッキング** 数時間で終わるものから、5日間かけてエディス滝まで行くものも。途中アボリジニ・アートを見られる場所もあります。

**遊覧飛行** 渓谷の壮大さを味わいたいなら、ヘリコプター・ツアー。12分のコースで第6渓谷まで、25分のコースで13の渓谷全てが見渡せます。



**キャサリンの町**  
ダーウィンから南に車で3時間。市街地にはホテルやロッジ、スーパー、アボリジニ・アートのお店などが揃っている。また、30km南にはカク・カタ産乳列もある。



**マタランカ温泉**  
キャサリンから車で南に1時間ほどあるところにある温泉。38度くらいの温泉水に水着を着て入る。裸に囲まれたトロピカルな雰囲気のあるオープンエアの温泉。

## まだまだ楽しめるぞ! トップ・エンドでのアクティビティ



**アーネム・ランド**  
カカドゥ国立公園の東側に広がるアボリジニの居住地。入城の許可を持っているオペレーターツアーに参加すれば、手付かずの大自然と生きたアボリジニ文化が体験できる。



**セブン・スピリット・ベイ・ワイルダネス・ロッジ**  
コバーク半島の先端、アーネムランド内に位置するリゾート。ダーウィンから小型飛行機か、陸路で4WD車でアクセス可能。  
[www.sevenspiritbay.com](http://www.sevenspiritbay.com)



**マニャラルクック**  
キャサリンの南東100kmに位置するアボリジニのコミュニティ。アボリジニのガイドと一緒にブッシュ・タッカーやクラフトなど、彼らの生活・文化を体験できる貴重なツアーがある。



**バムル・プレーン**  
ダーウィンからわずか3時間で手付かずなトップ・エンドの大自然を体験できるサファリ・キャンプ・スタイルのリゾート。近くには壮麗なマリリーバード湿地帯が広がる。  
[www.bamuruplains.com](http://www.bamuruplains.com)



**テリトリー・ワイルドライフ・パーク**  
トップ・エンドに棲む野鳥や動物、植物を出来る限り自然に近い状態で見学できる公園。鳥のショーなども楽しめる。  
[www.territorywildlifepark.com.au](http://www.territorywildlifepark.com.au)



**ジャンピング・クロコダイル**  
船に乗り、釣り糸にぶらさがると劇に飛びつくクロコダイルを見学する約1時間の大迫力のツアー。ダーウィンから東に約70km、アアレード・リバーで1日に数回開催されている。



**フィッシング**  
ダーウィンは知る人ぞ知る釣りのメッカ。マリリーバードやダーリー・リバーなどの川でも、近郊の海でも気軽にアクセスでき、オーストラリア名物のバラマンディをはじめ、様々な釣りが楽しめる。



**クルージング**  
気軽に数時間で楽しめるサンセット・クルーズから、何日間もかけてグレートバリアリーフやブルームに行く本格的なクルージングまで、ダーウィン発の様々なクルーズがある。



**イースト・ポイント**  
ダーウィンに来たなら押さえておきたい、夕日の絶景スポット。水平線に沈む真っ赤な夕日が印象的。ワラビーに出会うこともできる。また、「Pee Wee's」という、海を日曜に楽しめるレストランもある。



**スカイ・シティ**  
ダーウィンで唯一カジノがあるスタイリッシュな5つ星ホテル。市街地から北へ車で5分のところがあり、ミニゴルフコースやプールも備わっている。  
[www.skycitydarwin.com.au](http://www.skycitydarwin.com.au)



**アクアシーン**  
入り江に集まる、ナマズやバラマンディなどのたくさんの魚に、餌をあげたり触れたりできるダーウィンの人気スポット。満潮時に合わせて毎日開催時間が変わる。  
[www.aquascene.com.au](http://www.aquascene.com.au)



**デッキチェア・シネマ**  
4~11月までの乾季に、ダーウィンの海辺のオープンスペースで、夕暮りがたけら映画を楽しむことができる。ワインやビールも販売している。  
[www.deckchaircinemas.com](http://www.deckchaircinemas.com)

# DARWIN

自分だけのストーリーを

ダーウィン

Northern Territory



# Darwin

ダーウィン

## 熱帯の開放的な街から冒険の舞台へ

オーストラリアの中で最もアジアに近い北端に位置し、トロピカルな雰囲気にも包まれる街。各国の移民や先住民アボリジニも多く、生活や文化も実に多種多様。また、周囲には世界遺産であるカカドゥをはじめ、たくさんの国立公園があります。2004年に大陸縦断鉄道ザ・ガンも開通しました。さあ、ここから旅を始めましょう！

### 1日目・午後 まずはダーウィンの街をすみずみまで探訪

ここに着くとまず、緑の豊かさに目を奪われるでしょう。熱帯に位置するこの地域では街中緑に溢れています。植物好きな人は、中心部から北に2km、42ヘクタールの面積を誇るダーウィン植物園に行ってみてください。敷地内に約400種以上の様々な植物が茂っており、オーストラリアの植物だけでなく、南米やアジアなどからの外来のものもたくさん見られます。ヤシの並木や蘭のコレクションは特に有名です。

この地域の文化や生活に興味があれば、ノーザン・テリトリー美術・博物館は外せません。アボリジナル・アートはもちろん現代作家の絵画やこの地域に棲む生物についての展示も興味深いです。また、ダーウィンは第2次大戦時に日本軍が空襲したオーストラリアで唯一の都市であることを知っていますか？ 街の中心部に残る燃料貯蔵用の地下トンネルや、イースト・ポイントの戦争博物館で、当時の様子を知ることができます。



**ガン鉄道**  
キャサリン、アリス・スプリングスを經由してアレードまで大陸縦断。  
[www.australia-train.com/gar](http://www.australia-train.com/gar)

**ダーウィン植物園**  
⑧ 7:00~19:00 ⑨ 無料

**ノーザン・テリトリー美術博物館**  
⑧ 9:00~17:00(月~金)  
10:00~17:00(土・日・祝)  
⑨ 無料

**イースト・ポイント戦争博物館**  
⑧ 7:00~19:00 ⑨ A\$5

**第2次大戦オイル・ストレージ・トンネル**  
⑧ 5-8月(毎日)9:00~17:00  
10-4月(火・日・祝)10:00~14:00  
⑨ 大人A\$4.50/子供A\$3

**ツアー・タブ**  
ダーウィンの街の観光名所を巡回している乗り降り自由のバス。  
⑧ 9:00~16:00 ⑨ A\$25  
13:00~16:00 A\$15

### 1日目・夕方 海風を感じながら開放的なムードのディナーを

ダーウィンは年間を通じて暖かいので、オープンエアでの食事もおすすめ。特に夕暮れ時、海沿いのハーバーが見えるデッキの上で海風を感じながら食べる、オーストラリア名物の魚、パラマンディは最高。オーストラリアの食材を使った料理はもちろん、世界各地の料理が楽しめます。

おしゃれなカレン・ベイでヨットハーバーを目の前にロマンチックに食事をするのもよし、イースト・ポイントで、夕日で真っ赤に染まった海を眺めながらコース料理を味わうもよし、ストークス・ヒル・ワーフで地元の人達と賑やかに乾杯するもよし、熱帯の開放的なムードを楽しんでください。



**<カレン・ベイ>**  
Yots Café-シーフード料理やピザ・パスタなど。  
Buzz Café-しっかりした食事からカフェやデザートまで。  
Seafood on Cullen-リーズナブルに新鮮なシーフードを堪能。

**<イースト・ポイント>**  
Peo Wee's at the Point-地元産の食材を生かしたオーストラリア・キューズが楽しめる。

**<ストークス・ヒル・ワーフ>**  
Crustaceans on the Wharf-地元の人にも人気のカジュアルなお店。

## 2日目・午前 あなたもクロコダイル博士?!

なんと数千匹のワニを飼育、研究している施設。ガイドのツアーに参加すると、餌に食らいつく迫力のあるワニを間近で見られます。園内にはワニの特徴や習性を学習できる展示施設も充実。ワニ以外にも、オーストラリアの動物カンガルーやワラビー、エミューをはじめ、輸入されたライオンやトラ、豹までも飼育されており、バラエティ豊かな動物を観察できます。



**クロコディラス・パーク**  
 ダーウィン市街地から車で約15分、ダーウィン空港から約5分。  
 ワニの餌付け時間(変更もあり):  
 10:00, 12:00, 14:00, 16:30  
 ☎ 9:00~17:00  
 ①大人A\$25/子供A\$12.5  
 www.wmi.com.au/crocodilepark

## 2日目・午後 お気に入りのアボリジニ・アートを見つけに

ダーウィンの市街地は、ミッチェル・ストリートを中心にコンパクトにまとまっていて、歩き回って楽しむのに最適。中でも街角のあちこちにあるアボリジナル・アートのギャラリーは是非立ち寄りて欲しいところ。民族ごとに異なった技法を持ち、トップ・エンドならではのアートが見られます。お気に入りの見つけたら記念に買って帰るのもいいかもしれません。また、ダーウィン近郊の海は知る人ぞ知るパールの産地。オーストラリア真珠博物館で真珠産業の歴史について勉強したり、南洋パールをプレゼントに買ったりするのもおすすめ。歩くのに疲れたら、オープン・エアのカフェで一息つこう。



**アボリジナル・アート・ギャラリー**  
 ●アボリジナル・アート・ギャラリー  
 ●アボリジナル・ファイン・アート  
 ●マニングリダ・アート・カルチャー  
 ●メイソン・ギャラリー  
 ●ムンチュア・ギャラリー 等

**オーストラリア真珠博物館**  
 ☎ 10:00~17:00  
 ①大人A\$9.5/子供A\$4

**バスバリー・パール**  
 スミス・ストリート・モール内の観光客パールを扱うお店。

## 2日目・夜 食べて観て買って、熱帯の野外マーケット

今やダーウィン名物となったミンディールビーチ・サンセット・マーケット。ビーチに沈みゆく夕日を背景に中国やイタリアはもちろん、タイやインドネシアなどの世界各地の料理の屋台が並びます。お気に入りの一品をほおばりながら、ライブやパフォーマンスが開催される広場に向かいましょう。トロピカルな雰囲気ながらも乾季ならではのさらっとした空気が心地よく、何時間でも楽しめそう。民族パティークの布や手作りアクセサリー、アボリジニアートなどのお店で他にはないデザインを見つけるかもしれません。乾季にあたる4月末から10月末まで、木曜と日曜の夕方から開催。

その他、ダーウィンでは週末を中心にあちこちでマーケットが開催されています。少し早起きをして地元の人達にまぎれて、新鮮な果物やシーフードを試しに行きましょう。



**ミンディールビーチ・サンセット・マーケット**  
 1987年から始まったマーケットで、今では200以上の出店が連なる。乾季の間、毎週木曜と日曜に開催され、木曜の方が規模が大きい。  
 ☎ 4月末~10月末 木17:00~22:00  
 日16:00~21:00

**バラップ・ヴィレッジ・マーケット**  
 色鮮やかな果物や野菜が並び、屋台からいいにおいがしてくる活気あふれた雰囲気。ランチをここで食べるのもいい。  
 ☎ 土 7:30~13:30  
 www.darcity.nt.gov.au/residents/community\_services/markets.htm

**ラビッド・クリーク・マーケット**  
 果物や野菜、工芸品などが販売される。  
 ☎ 日 7:00~13:00  
**ナイト・クリーク・マーケット**  
 食べ物や日用品、リサイクルの物など。  
 ☎ 日 8:00~14:00

## 8日目・朝 ちょっと足を伸ばして見たことのない大自然に触れよう

更に1日滞在ができるなら、一歩足を伸ばして、リッチフィールド国立公園に行ってみましょう。ダーウィンから車でわずか1時間半で、気軽にトップ・エンドの大自然を体験できます。見どころは、泳ぐことのできる美しい滝や道中で見られる巨大なアリ塚、ワラビー、野鳥などの野生動物。

また、アボリジニ文化に興味があるなら、ダーウィン沖80kmのティウィ島に戻り、彼らの工芸を見学するのもおすすめ。

**リッチフィールド国立公園**  
 ダーウィンからスチュアート・ハイウェイを南に115キロ。ダーウィンから様々なツアーが催行されている。  
 www.nt.gov.au/nrwa/parks/find/ritchfield.html

**ティウィ島**  
 ダーウィンから小型飛行機か船でアクセス可能。ティウィに住むアボリジニのガイドが、島内を案内してくれる。ダーウィンから日帰りツアーがある。  
 www.tifg.nt.gov.au

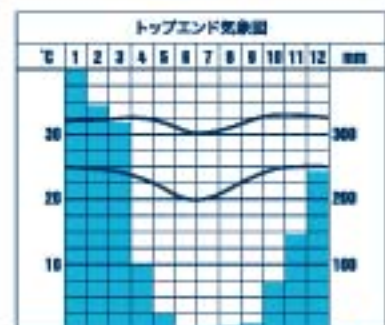


## トップ・エンドの基礎知識



### ネイチャーズ・ウェイ

トップ・エンドのおすすめのドライビング・ルート。走行距離457km、3〜4日かけて回るのが良い。ジムジム湖やツイン滝に行く時など未舗装の道路を通る場合、乾季のみ通行可能。



### アクセス

日本からはクアーズやブリスベン、シドニーやパースなどを経由して国内線に乗り換えてダーウィンに向かうのが便利。また、シンガポールやマレーシア経由でもアクセス可能。また、2004年にダーウィンまで開通した大陸縦断鉄道「ザ・ガン」を利用してアデレード、アリス・スプリングスなどからダーウィンに入るもの人気が高い。ダーウィンに到着している長距離バスもリーズナブル。レンタカーを利用する場合は余裕のある日程を組もう。

面積：135万9750km<sup>2</sup> (日本の約4倍)

人口：約18万人(うち9万人がダーウィン)

気候：トップ・エンド 乾季(4月-10月)

雨季(11月-3月)

レッド・センター 春夏(9月-2月)

秋冬(3月-8月)

※砂漠気候なので朝晩の冷え込みが厳しい

時差：年間を通して日本より+30分

## ■ トップ・エンドの主要イベント情報

### ダーウィン・フェスティバル(7月末〜8月中旬)

毎年恒例の熱帯での暮らしを祝うお祭り。植物園からハーバー周辺まで様々な場所で開催されます。コンサートやダンス、表座やコメディショーなどバラエティ豊かなパフォーマンスが繰り広げられ、地元住民だけでなく、たくさんの旅行者も集まり、街中賑やかな雰囲気に包まれます。

www.darwinfestival.org.au

### ダーウィン・ビア・カン・レガッタ(7月末)

ダーウィン名物のイベントで、ビールやソフト・ドリンクの缶で作られたボートで行うレース。毎年恒例の、水と太陽を楽しむ陽気な1日です。オーストラリア人ならではのユーモアを感じてください。

www.beercanregatta.org.au

### ガーマ・フェスティバル(8月上旬)

アボリジニの居住区アーネムランドで本物の文化を体験します。彼らの生きた文化をお祝いするイベントで、伝統的なダンスや歌、アートなどを披露してくれます。

www.garmatelstra.com

### ダーウィン・カップ(7月〜8月)

ダーウィンで1番大きいホースレースのイベント。美しい馬の走りや乾季のトップ・エンドの快適な気候を楽しんでください。

www.darwinurfclub.org.au/v2/

### マリー・リバー・バード・ウィーク(8月中旬)

熱帯の鳥達の楽園、マリー・リバーで専門家による鳥を観察するための様々なツアーコースが設けられています。

www.maryriverpark.com.au

## ■ デスティネーション紹介

# Kakadu

### カカドゥ国立公園

ダーウィンから250キロ東に位置する、オーストラリアで最初に世界遺産に登録された国立公園。四国とほぼ同じ大きさの約2万km<sup>2</sup>の面積で、北部は緑豊かな湿地が広がり、南部は起伏に富んだ赤い断崖が連なり、変化に富んだ表情を見せてくれます。また、そうした大自然の美しさだけでなく、太古から続く貴重なアボリジニの壁画がワビルヤノランジーなど園内のあちこちで見られ、数少ない自然・文化複合遺産でもあります。また、野生動物もたくさん生息しており、野鳥においては豪州にいる3分の1がここで見られ、バードウォッチングには最適です。さらに東に進むとアボリジニの居住区アーネムランドがあります。この地に入ること許可されたオペレーターツアーに参加すれば、手付かずの大自然と生きたアボリジニ文化を直に体験できます。

# Darwin

### ダーウィン

ノーザン・テリトリーの首都ダーウィンは、アジアに最も近い都市で熱帯ムードが漂う、現代的な街です。人口は約10万人で、アジアやヨーロッパなど50カ国以上の移民が織り成す多彩な文化が特徴的です。温暖で過ごしやすい気候のため、マーケットやフェスティバル、シアターなど屋外で楽しめるアクティビティがたくさん。街中に緑が溢れ、陽気な雰囲気に包まれています。シドニー湾の約2倍の大きさを持つダーウィン湾からは、夕景や釣りを楽しむためのクルーズ船がたくさん出入りし、ハーバーではおしゃれなカフェやレストランが軒を連ね、新鮮なシーフードが食べられます。また、カカドゥやリッチフィールドなどの国立公園へのゲートウェイとして、大陸縦断鉄道のターミナル駅としても重要な役割を担っています。